

論」1巻刊行の際のマルクスのプラン変更(資本蓄積論の拡張)に関する教授の見解についてただした。(これについては佐藤金三郎氏による紹介通りという回答であった)わたくしは以前「資本論」3巻15章のエンゲルスの編集について、この研究所のカズミナ氏を書いて論文のことが頭にあったので、この機会にもう少し確かめおきたいと思って教授にその旨伝えたところ、早速自室に呼んでくれた。カズミナ氏はわたしが想像していたのとは異ったタイプの女性研究者であった。通訳の能力に制約されたためか、あるいはわたくしの質問がエンゲルスの編集に疑義を提出する底意があると彼女が誤解したためかは知らないが、何度質問を重ねても「エンゲルスの編集には問題はない」と同じ言葉を繰返すばかりで、質問の要点には少しも近づかないのには閉口した。わたくしは一度に疲労を覚え、ついに根負けして質問を打切った。

(後記) 当初の予定ではこの後東ドイツと西ヨーロッパの研究所の訪問記を続けるつもりであったが、すでに大分紙数を費したので、一まずソ連で打切ることにする。ご了承を乞う次第である。

[所 報]

- 特定研究「産構研」メンバー会議(1971年10月9日午後1時より、神田校舎第2会議室) 研究幹事より 1) 研究経過報告, 2) 46年度計画案および予算案について, 3) 北九州実態調査計画について説明・質義応答が重ねられた。
- 特定研究「産構研」実態調査準備研究会
 - (I) (1971年10月12日, 午後2時半より, 生田図書館5階集会室) 栗木安延氏「日本鉄鋼業の労働力編成」
 - (II) (1971年10月16日, 午後3時より, 生田図書館4階1号室) 大友福夫氏「戦後日本の鉄鋼労働調査」
 - (III) (1971年10月19日, 教授会終了後, 生田図書館5階集会室) 三輪芳郎氏「鉄鋼業の生産力構造」
 - (IV) (1971年10月21日, 午後2時30分より, 新日本製鉄株式会社本社5階応接室) 新日鉄越智企画部副部長「新日鉄と協力会社」
- 社研定例研究会(1971年10月26日, 午後2時半より, 生田図書館5階集会室) 『社会認識の歩み』を書かれた内田義彦氏が、森鷗外の作品を中心に、萩生徂徠などとも関連させて日

本思想史における興味深い問題点を提示された(「憂と献身」〔『図書』1971年11月号所収)参照)。

○特定研究『産構研』北九州実態調査(1971年10月28日～11月2日)北九州市八幡大学で開催された日本社会政策学会終了後、大友福夫・三輪芳郎両氏を中心に、特定研究「産構研」の一環として所員11名が参加、新日本製鉄八幡(戸畑も含む)製鉄所ならびに稼動準備中の大分製鉄所の施設見学ならび聴取・資料探訪調査を実施した。

○社研事務局会議(1971年11月17日、午後5時より、生田図書館4階6号室)

1) 報告 『日本近代化の研究』(上・下)刊行予定、石堂清倫氏より資料受贈の件、2) 秋季定例所員総会準備、3) 各部報告、4) 特定研究「産構研」進展状況まで。

○特定研究「産構研」メンバー会議(1971年11月26日午後2時半より、生田図書館5階集會室) 1) 昭和47年度研究計画調査作成の基本方針について、2) 最終的な全国グループの成果とりまとめと、それへの準備について、3) 本年度設備備品・図書資料の購入について

○特定研究「産構研」研究代表者・連絡幹事合同会議ならびに第3回合同研究会(1971年11月27日～28日、京都市左京区関西セミナーハウス) 第1日目の正午より2時間研究代表者・連絡幹事合同会議が開かれ、1) 47年度合同研究会について、2) 最終的研究成果のとりまとめについて、3) 47年度研究費申請など、をめぐって討論・質疑が重ねられた。終了後ひきつづき合同研究会に移り、「産業構造の変革と公害問題」を統一テーマとして、5研究グループより興味ある報告があり、翌28日の午後迄活潑な討論が続けられた。

○社研運営委員会・幹事会ならびに事務局との合同会議(1971年12月4日、午後1時半より、生田図書館4階5号室)

1) 秋季定例所員総会準備のため、一般・各部報告(会計・編集・資料・研究会)と特定研究「産構研」報告、2) 来年度社研研究活動計画案ならびに請求予算案の検討、3) 社研所員構成などについて。

○第18回定例所員総会(1971年12月11日、午後2時半より、生田校舎第1会議室)

1) 報告

a) 事務局一般報告

b) 各部(会計・編集・資料・研究会)報告

c) 特定研究「産業構造変革」の研究活動状況報告

d) 旧特定研究「日本近代化」の全国成果編集状況についての報告

2) 議 題

- a) 昭和46年度研究経過報告案について
- b) 昭和47年度研究活動計画案ならびに請求予算案について

以上については、検討・審議の結果、原案通りに承認された。また、個人研究助成については1件、追加募集することとした。

○社研事務局会議(1971年1月27日、午後2時30分より、生田図書館5階集会室)

- 1) 定例研究会準備について、2) 編集部より『年報』6号の校正進捗状況ならびに『月報』100号記念号印刷部数について討議、3) 特定研究「産構研」幹事より文部省へ昭和46年度研究費「中間使用状況報告」提出の件、および「鹿島臨海工業地帯」を中心とした実態調査のための研究会の準備状況報告があった。

○特定研究「産構研」研究会(1971年2月7日、午後1時より、神田学士会館)

- 中央大学講師島崎美代子氏より「鹿島開発——その現状と問題点」として、1) 概況、2) 鹿島開発と土地収奪、3) 農民、について興味深い報告をいただいた。

○社研拡大事務局会議(1971年2月19日、午後3時より、生田図書館5階江沢研究室)

- 1) 個人研究助成募集確定の件、2) 各部(編集・資料・研究会)報告、3) 「鹿島臨海工業地帯」実態調査準備の進捗状況ならびに今後の打合せをおこなった。

< 編 集 後 記 >

千葉県にも公害病患者が発見され、しかも大気汚染度は川崎市をこえている、と新聞は報じています。まもなく、公害病患者が「認定」されるでしょう。当局者はこの措置を誇らしく語るでしょう。しかし、大切なことは、公害病患者を認定したり、汚染許容度を法定したりすることではなく、公害病をなくすることであり、汚染を完全不許容にすることでないでしょうか。 (Q)

神奈川県川崎市生田4764

専修大学社会科学研究所 電話 (044) 91-7131〔内線63〕

(発行者) 江 沢 譲 爾